



志紀おおぞらこども園 第6号

発行者：岡内郷子 2024, 5, 29

5月21日 園舎西側にある「おおぞらっこ農園」で地域の方と一緒に5歳児の子どもたちが、サツマイモと夏野菜の苗を植えました。「この苗は何か知っているかな?」という地域の方の質問に、「ゆず!」「きゅうーり!」「わからーん!(笑)」など、思いついたことを思い思いに言葉にしながら答える姿もあたたかく受けとめていただき、一人ひとりに優しく言葉をかけていただきました。いつも温かく見守っていただいて、ありがとうございます。地域の方々のあたたかさにもふれた一日になりました!

地域の方のあたたかさにもふれています



「何があるのかな?」背伸びして見てみよう! 立てるようになった0歳児の探求心も始まっています

Do you know 好きな遊び?

大好きな担任の先生と、草花を摘んで「どんなにおいするのかな?」と、匂いを嗅ぎながら、笑顔で会話しているよ。

廃材を使って UFO につくって、空中を飛ばしたよ~

水溜まりの水をすくって、コップにいっぱいしたいねん。



この段ボールの中秘密基地みたいや! 友だちと入ると楽しいねん。



「さあ、これで濡れないぞ!」ままごとのお皿を盾にしてシャワーをシャットアウト。(笑)



先生たちからよく「今日はこんな**好きな遊び**をしていました!」って聞くけど、**好きな遊び**ってなんやる??と聞いていっちゃう保護者の方も多いのでは...

そうなんです、こども園には教科書がありません。なので、子どもたちは日々の**好きな遊び**の中で、気づいたことや発見したことを友だちと共感し、それをクラスの友だちに言葉で伝えるという実体験を通して学んでいるんです。

いわゆる小学校での教科書を通しての学びは“認知能力”もう一方、こども園での学びは“非認知能力”(=社会情動的スキル)と呼ばれています。その非認知能力を幼児期に育てておくことで、将来、子どもたち自身が社会に出た時に役立つ力(粘り強さ・真面目さ・自制心・忍耐力、協調性など)が、培われていると言われています。なので、こども園での遊びは、ただ遊んでいるのではなく、小学校以降の学びにつながる基礎の力を養っています。「遊べる子ども=学べる子ども」と言われているのも、このことから伺えますよね。今の子どもたちは、AI が当たり前にある世の中に生まれています。そして、ここからは社会が大きく変化し、リモートが日常的に使われるようになったり、学校や会社へ行かなくてもいい文化になったりしているかもしれませんね。

また、2007 年以降に生まれた子どもは、107歳まで生きる確率が 50%もあるそうですよ。(びっくりですね) そして、子どもたちが大学生や社会人になる10数年後には大きく社会が変化し、日本の労働人口の約 49%がロボットにより代替できるようになるという統計結果も出ているようです。そして、人工知能 (AI) が具体的に発達し、今ある仕事の 60%がなくなるようです。そんな未来社会の変化に対応できる力をつけるのが、まさに今の幼児期の教育・保育であり、本園が行っている「一人ひとりの内面理解の基**好きな遊び**」を大切にしている環境を通じた教育・保育」です。

なので、ご家庭でもできるだけ否定的な言葉は使わずに、子どもたち自身が考えられるような言葉をかけるようにしてあげてください。きっと、未来に伸びる力につながっていくと思います。